

令和6年度 第2回学校運営協議会
(兼 高校と地域で創る未来のプロジェクト事業地域連携組織)
議 事 録

日時 令和6年10月31日(木) 13:30～16:00
場所 岡山県立勝間田高等学校 記念館3階会議室
(委員15名のうち、12名が出席)

1 開会行事

- (1) 校長挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 事務局より

2 授業参観・施設見学

3 報告

【議長】

最初に、校長と事務局から学校の教育活動や課題について説明をいただきたい。

【校長】

(1) 学校経営・組織編成に関する事項

- 令和6年度 学校経営計画書について
- 令和6年度 三つの方針(スクール・ポリシー)について

【事務局】

○令和6年度 学校評価書(中間達成状況と評価)について

(2) 予算執行に関する事項

○令和6年度の主な事業と予算(執行状況)について

(3) その他関連する事項

○令和6年度 主な事業・取組等について

1. 行事等

(1) 勝央町関係

- 勝央町役場前植栽 4/22(月) 9/20(金)
 - ノースヴィレッジ花壇植栽 5/20(月) 10/21(月)
 - 勝間田駅プランター設置 6/10(月) 11/11(月)
 - 勝央町役場前販売 7/17(水)
 - 金時祭 出店 10/13(日)
 - 勝央町フードドライブ 本校玄関にて受付
- (2) 小・中学校との連携関係
- 勝央中学校
 - 進路説明会 9/25(水)
 - 勝央北小学校
 - 草花植栽交流 5/13(月)
 - 勝間田小学校
 - イモ学習交流 6/11(火) 10/17(木)本校園場
 - 森林交流学习 6/17(月)事前学習 6/21(金)演習林(津山市加茂)
 - 中学校説明会 県北中学校 16校(6/11(月)～10/3(木))

○その他 SAVE JAPAN プロジェクト 8/24(土)演習林(津山市加茂)

(3)校内行事等

○清風祭体育の部 6/ 7(金)午前中開催

○清風祭文化の部 11/16(土)各系列等の展示・ステージ・模擬店
9:30~14:00 一般公開

○修学旅行 10/ 9(水)~11(金)東京方面実施

○オープンスクール 10/19(土)実施

参加者:中学生 101 人(申込み者 105 人)・保護者等 70 人

○農産物・生産物販売

苗物販売 4/24(水) 9/21(土) タマネギ苗販売 11/8(金)

シクラメン販売 11/29(金)

冬野菜販売 11/29(金) ゆのごうマルシェ 事務室窓口販売

○地域清掃活動 6/19(水) 9/18(水) 1/15(水)

(4)その他

○「みま咲く未来フォーラム 2024 in 津山」 10/26(土) 生徒発表

○全国林業後継者大会 5/25(土) 生徒参加

○全国植樹祭りハーサル 5/25(土) 生徒参加

○全国植樹祭 5/26(日) 生徒参加

○日本伐木チャンピオンシップ青森 6/1(土)・2(日) 生徒出場

○高校生ものづくりコンテスト自動車整備部門 6/1(土) 生徒出場

○高校生ものづくりコンテスト溶接部門 12/14(土) 生徒出場

○岡山県自動車整備振興会自動車整備大会高校生部門 5/19(日) 2 位入賞

○日本フォーミュラービート協会フォーミュラービートメカニック体験

10/12(土)・13(日) 生徒参加

○農マル園芸寄せ植え甲子園 10/28(月) 生徒出場

2. 情報発信

(1) 地域協働活動コーディネーターによる SNS (Facebook、Instagram) での情報発信

(2) 学校ホームページの更新

(3) 「広報しようおう」紙面の提供

○新入生アンケート集計結果について

○令和6年度進路指導状況の報告

【議長】

事務局からの説明に対し、質問等があればお願いしたい。

【委員 A】

高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業について、今年度は県から推進校指定していただいているが、単年度で来年は確約されていない。高校の魅力発信はとても重要であり、周辺の学校が苦戦している中、勝間田高校入学者数が横ばい、微増という結果は、コーディネーターの情報発信による力が大きい。また、「カツトレ」の活動もひとつの魅力になればと取り組ませてもらっているが、単年で結果が出るものではないと思う。だんだんと数値で結果があらわれている中で、力を入れてやっていくべき。引き続き、推進校として手を上げていけたらと思う。

【議長】

ありがとうございます。このことは、協議の方でもう少し突き詰めて話したい。

【委員 B】

オープンスクールの参加者数を教えてほしい。

【事務局】

資料の 8 ページと 13 ページにあります。

【委員B】

各コースの希望人数はどうなっていたのか。

【事務局】

森林コースが21名、園芸コースが32名、食品コースが61名、自動車コースが25名、ビジネスコースが29名です

【議長】

アフタースクール「カツトレ」は、最初は20数名が受けていたが、その後、今の人数はどうなっているか。また、参加している生徒の感想をお聞きしたい。新入生アンケートの中で、部活動の評価がマイナス評価になっているが、これは逆に、何らかの部活動をやりたいという希望の生徒がいるのではないかと思う。勝間田高校も以前は、相撲部やなぎなた部など全国制覇に近いところはいくような部活があったが、現状を教えてください。

【事務局】

まず、1点目のアフタースクール「カツトレ」については、20名程度が参加している。前回は、オープンスクールの前日ということで、午後はオープンスクールの代表生徒が準備をする日だった。オープンスクールの代表になるような生徒は、「カツトレ」に参加してくれている農業クラブや生徒会の中心人物だったので、その日だけは10人を切ってしまったが、ほとんどの会は20名程度が参加している。最終的にはアンケートを実施する予定だが、毎回参加している生徒の様子を見てみると、楽しそう。毎回、さまざまな講師の方が来てくださるが、毎回、子どもたちの取り組みが良く、できていることもレベルが高いと評価を受けており、非常にありがたい。この活動は、継続することでより真価が発揮されると思う。今年度は、中学校説明会で「カツトレ」について一切説明していないが、今後は本校の魅力の一端になっていくのではないかと考えている。

2点目の部活動については、直接の答えにはならないかもしれないが、先日の産業教育懇談会でも話題になったが、県北から県南へ生徒が流出していることが、県北地域の高校の大きな課題になっている。その大きな要因としては、1点は進路実績、もう1点が部活動にある。県南は規模が大きく、さまざまな部活動の選択肢がある。しかも、部員の人数も多い。部活動の強豪校は県南に集中していることは大きな課題である。人数も限られた中で、ただ部活動を増やすのではなく、精選が必要である。本校の場合も、精選が必要で、何を残し、新たに何を作るのかということを引き続き検討していかなければならないと考えてる。

【議長】

一つ提案だが、農業高校の強みを活かすような部活動があってもいいのでは。農産物の栽培だけでなく、商品化やその過程を研究させるなどはどうか。

【事務局】

その話を聞いて頭に浮かんだのは、ドリームファーム。これも、勝央町からのご支援をいただいているが、まさに、農業の学びをした子どもたちが、実践の場で作物を育て、販売し、その利益で次の資材を購入するという流れができている。先日の「みま咲みらいフォーラム」で生徒が発表したけど、発表後に生徒が感想を求められ、一人の生徒が「先生には悪いんですけど、日々の座学の授業では積極的になれなかった部分があるが、農場で実際に自分が学んだことができるのがとても楽しい」と言っていたことが、とても嬉しく、農業クラブのこうした活動を継続、充実させていきたい。また、部活動ではないが、マーケティングの授業の学びが農業とビジネスのさまざまな学びを関連付けて、生産から商品企画、販売までの取り組みにつながっていく学びをやっており、これが発展していければと思っている。

【委員C】

学校課題の一つである個別の教育支援計画が必要な子というのは、具体的にどういう子なのか。また、その場合、保護者側やその子に対する支援制度があると思うが、その点について教えてください。

【校長】

個別支援については多岐にわたる。身体的な障害を支援するとか、心の問題、いわゆる情緒のこと。それから、落ち着いていられない、じっとしていられない、コミュニケーションが取れないなど多岐にわたる。子どもたちがそういう困難さを、教師が支援で少しでも軽減するために、この子にはどういう支援をしたらいいのかをバトンのようにつなげていくのが、個別の教育支援計画である。例えば、小学校ではこうしていて、こういう支援をすると、子どもが困難さを少しは軽減できたという情報をつないでいくもの。学校生活や家庭での生活の中に何らかの困難を感じている生徒に対して、教育、行政、いろいろな立場の者でチームを組み、みんなで話をする場を設けながら今に至っている子どもの割合がこういう状況である。

【委員C】

診断はあるのか、ないのか。

【校長】

両方。グレーゾーンも含め、多岐にわたっている。

【委員C】

学校側だけが、抱えるのはアンバランスな気がした。診断が出れば、使用できる制度もあるだろうし、サポートもあるのではないか。

【校長】

本当にこの生徒は本校に入学して、幸せなのかを考える。支援学校や中学や小学校は支援員がいるが、全日制の高校には支援員はいない。本校は通級があるので、1名ついているが、1名では足りていない。高校の教員は、特別支援の免許は持っていない。あえていうが、素人が対応しているのが実態だと思っていただくとわかりやすいかと思う。

【委員C】

状況は非常にわかりました。

【議長】

説明についての質問はここで打ち切り、すでに協議題に入っている部分もあるが、今回の「勝間田高校のさらなる魅力化・教育の充実について」ご意見をいただきたい。

【委員D】

通級の指導は専門性に長けた人でなければならない。人が必要なのが現実だと思う。これは強く要望していただきたい。高校は、入学した子を無事に育て上げ、卒業させるという使命を持っている。その使命を全うするためには、そういう教員がどうしても必要だと思う。

【委員E】

特性をもった生徒が入学してきて、高校卒業後は就労していく。通級指導だけでなく、3年かけて特性をもった生徒たちをどう社会につなげるかという点で、高校は最後の砦になっている。そのためにも人が必要。今年度も要望できたらと思う。

【委員C】

ビジネスの学科があるので、広報やマーケティングについてもう少し生徒にやらせてもらってもよいのでは。その授業に高校コーディネーターが講師として参加してみてもよいのではと思う。

【委員F】

特別支援が必要な生徒は、県立高校だけでなく私学にも多い。そうした子たちは、卒業後に早期離職をしてしまう。そこで、私学協会が立ち上がり、早期離職対策室を設けた。中小企業の社長さんたちが協力してくれた。福祉心理士も巻き込んだ。プログラムを通して、若干ではあるが、生徒たちは変わる。特別支援教育に係る人材については、先生方の負担を軽減するために、福祉心理士とタイアップしてみてもは。それに協力的な企業を見つけ、最終的にはその企業に就職し、早期離職をしない仕組みをつくる。企業にとっても早期離職は課題であるため、両方がwin-winになる関係をつくってみてはどうか。

【議長】

特別支援の専門技術をもった教員がいない。民間との協定も必要になってくるのではないかな。

【委員G】

校長の3つの提言はいいことだと思う。何か協力できることがあればやっていきたい。新入生のアンケートの中で、資格が取れるから勝間田を選んだという意見が多かったので、こうしたことも情報発信していただきたい。

【委員H】

特色のある学科があるのが魅力。森林コースの女性が伐木の大会に出て頑張ってきたというのは、本当に好きだから入ってきたんだなと思う。こうしたことを発信することで興味をもってもらえると思うので、情報発信はとても重要である。

【委員I】

SNS は子どもの目線で子どもたちが自分で発信するのがいいのではないかな。発信の仕方などを伝えていくのがいいのでは。部活については、会社をつくってみてもいいのでは。それぞれのコースの生徒が入部し、SNS の発信などをしていてもおもしろいと思う。やはり、専門の方がいる方が、子どもたちにとってもよいと思うので、基本的に3つとも賛成である。

【議長】

いろいろと意見をいただき、ありがたい。

- ・学校広報に関わる人材・予算
- ・特別支援教育に係る人材について
- ・2025 年度設定される高教研について

の3点を、勝間田高等学校運営協議会として岡山県教育委員会へ要望したいと思う。

5 閉会行事

事務局より

- ・第3回学校運営協議会について 2月下旬で調整